

教えて！行書のこと

行書の学習は、中学校書写の大きな柱となります。しかし、「行書って、難しそう」「うまく書けない」など、苦手意識をもつ生徒が多くいるようです。そのような生徒たちの意識を変えるためにも、行書の魅力を探っていききたいと思います。書道の歴史に詳しい、書道博物館の鍋島先生にお聞きしました。

いちばん身近な書体

なぜ中学校になると行書を学ぶのでしょうか。

鍋島 楷書は行書と違って、一画一画が独立しています。ですから、書くのに時間がかかります。一方、行書は線を流動的に続けて書いたり、省略して書いたりするので、書くスピードが格段に速くなります。行書を学ぶ最大のメリットは、時間を節約できること。みなさんも、授業でノートをとるときは、なるべく速く書くようにして、自然と行書を書いているはずです。

私は行書がうまく書けないの。先生にアドバイスをもらいたいな。



僕たちが、さまざまな行書の疑問をぶつけてみました。



イラスト：北村ケンジ

行書の成り立ち

そもそも行書は、いつ頃できた書体なんでしょうか。

鍋島 今から千九百年ほど前にはすでに行書のような姿が見られます。みなさんはきっと、行書は「楷書から生まれたもの」と思っていますよね。

楷書をくずした書体が行書だから、楷書から生まれたんでしょう？

鍋島 実は、違うんです。えっ！

鍋島 下の図を見てください。今から二千二百年ほど前には、篆書という書体がいわれていました。しかし、篆書は書くのにとても時間がかかるので、それを簡略化した隷書という書体がいられるようになりました。その後、隷書の速さとして草書や行書が生まれ、最後に楷書が完成したのです。

篆書・隷書・楷書は、公式な書体として用いられました。楷書は今でも入学願書や履歴書など大切な書類を書くときに使いますよね。

公式の書体としての流れは、篆書から隷書へ、そして隷書から楷書へと発展していくわけですが、日常ではもっと速く

書ける書体の方が便利だということので、隷書から草書や行書が生まれたのです。

行書は、楷書よりも先に生まれたんですね。

鍋島 そうです。しかし、現在では楷書を学習してから行書を学びますよね。ですから、楷書を基準として行書の特徴をとらえる学習法が一般的になっています。うーむ。ちょっとややこしいなあ。

楷書も行書も草書も、隷書から生まれたんだね。



・日常の書体・

草書

草書

行書

行書

・公式の書体・

篆書

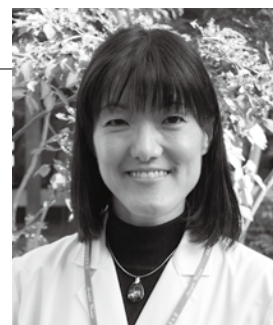
篆書

隷書

隷書

楷書

楷書



なべしま とう こ
鍋島 稲子

1965年生まれ。台東区立書道博物館主任研究員。筑波大学大学院芸術学研究所博士課程修了。博士(芸術学)。東京国立博物館客員研究員。大東文化大学講師。大阪教育大学講師。

確かに、自分のノートを見返してみると、文字の線に丸みがあったり、点画を続けて書いたりしています。

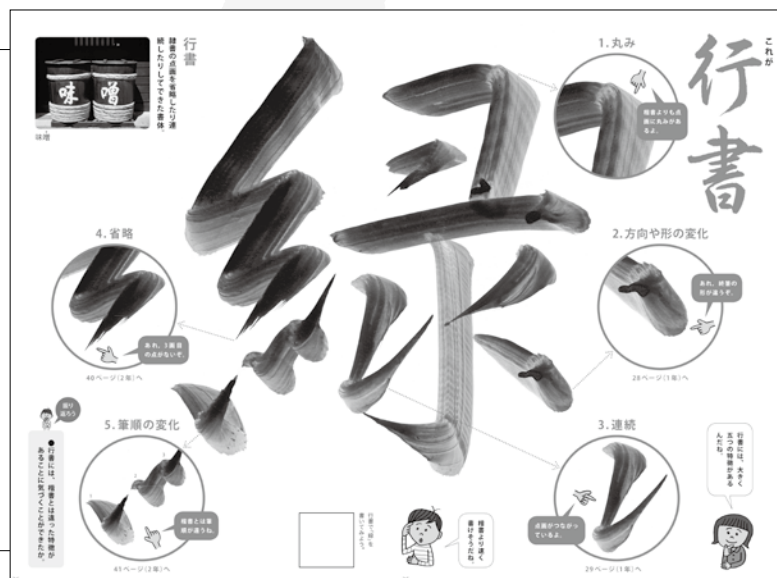
鍋島 私たちが、普段の生活で書いている文字には、行書の特徴が自然と表れているものが多いのです。ちょっとしたメモを取ったり、友達に手紙を書いたりするときは、サラサラっと、楷書をくずして書くでしょう。だから、行書は、みなさんにとって、いちばん身近な書体なんです。行書は、これから大人になってもずっと書いていく書体ですから、なるべく速く、そして美しく書けるようになりますよね。だから、中学校では、そのためのコツを学習するのです。

鍋島 みなさんは、「楷書をくずした形」というとらえ方で行書を学習してもよいと思います。でも、「行書は隷書から生まれた」という歴史的な背景があることを頭の片隅に置いてみてください。

うまく書くコツ

―行書を整えて速く書くにはどうすればよいのでしょうか。

鍋島 新版教科書には、行書を書くときのポイントがわかりやすくまとめられています（※1）。①丸み②方向や形の変化

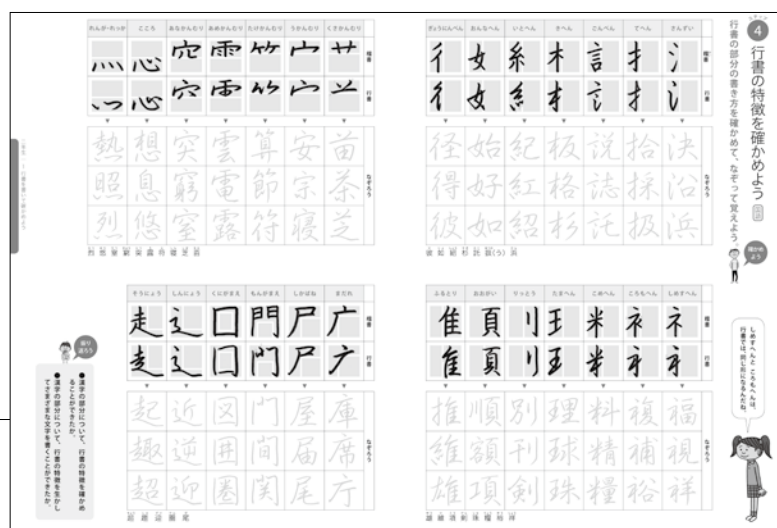


※1 平成24年度版教科書 P25-26

③連続 ④省略 ⑤筆順の変化です。この五つのポイントをおさえて書くことが、とても大事ですね。

―小学校で筆順をしっかり勉強してきたので、「⑤筆順の変化」があることに驚きました。

鍋島 筆順が変わることにとまどいを覚える人もいるかもしれませんね。筆の流れ



※2 平成24年度版教科書 P45-46

れや、速さを重視して文字を書くために、行書では筆順が楷書と異なる場合があります。また、先ほど話しましたが、そもそも行書は隷書の速書きとして生まれたものなので楷書とは筆順が違う場合があります。

―覚えることがたくさんあって、ちょっと大変そうです……。

新版教科書は、行書学習のページが、より充実しているよ。



書道博物館

書道博物館へ行ってみよう

東京都台東区にある書道博物館は、洋画家であり書家でもあった中村不折（一八六六一一九四三）が収集した、書道史研究において重要な資料が収蔵されている専門博物館です。

ラリートーク」を開催。漢字の成り立ちなどを、展示資料をしながら、鍋島先生が解説してくれま。事前に予約すれば、小・中学生対象の「キッズセミナー」も開催してくれるそうです。

紙に書かれた書だけでなく、動物の骨、青銅器、石碑、仏像に刻まれた文字など、あらゆる資料を観ることが出来ます。また、展覧会ごとに「ギャ

三千五百年前の動物の骨に刻まれた甲骨文字や、大きな石碑に刻まれた力強い隷書を観れば、漢字や書への理解がより深まることでしょう。

「石碑は、その時代における公式書体で書かれたものが多いですよ」と説明する鍋島先生。

古代中国から近代までの、さまざまな書が展示されている。



台東区立書道博物館

- ▶入館料 一般 500円(300円) 小・中・高校生250円(150円)
※()は20人以上の団体料金
- ▶開館時間 9:30~16:30(休館日は月曜)
- ▶電話 03-3872-2645
- ▶アクセス JR鶯谷駅から徒歩5分
- ▶HP <http://www.taitocity.net/taito/shodou>